普及活動の成果

様式６（左）

課題名　：担い手を支える地域労力支援組織の育成　振興局名：県北振興局
活動対象：労力支援システム活用組織、認定農業者　実施期間：平成２９年４月～平成３０年３月

【対象の概要】
管内で稼働している労力支援システム利用農家および管内認定農業者

【課題設定の背景】
１．農家への労力の安定確保に向け、管内全域にエリア拡大したJA職業紹介事業の本格稼働や新たな労力支援システムの検討が求められている。
２．既存組織では、作業支援者の確保及び能力向上、農家の労務管理能力の向上、雇用導入を契機とした経営改善への意識向上が必要である。
３．「世知原サカキ（以下サカキ）」、「かんきつ」、「津吉地区」、「佐世保地区イチゴパッケージセンター（以下イチゴPC）」では、新たな仕組みや組織化支援が必要である。

【活動目標】
１．県北地域雇用労力支援協議会（以下、労力協）を中心に、JA職業紹介事業の斡旋数増加、農福連携やN等の新システム活用検討、新たな人材掘り起こしを検討する。
２．既存組織の定例会等を通じ運営安定に向け助言や資料を提供し、既存組織の課題解決を図る。
３．「サカキ」「津吉地区」「イチゴPC」については新システムの本年度稼動を、「かんきつ」はJA職業紹介事業や大学生アルバイター、農福連携などによる収穫労力の安定確保を目指す。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】
≪県北地域雇用労力支援協議会≫
構成：市・町、JA、共済組合、たばこ耕作組合、県北振興局
役割：地域労力支援システムの提案・モデルの実証、労務管理能力向上活動

【活動経過】
１．労力協と連携し、農福連携に向けた体験会・マッチング会・見学会やＮの利用希望アンケートを実施し、視察研修により新たな取り組み事例を収集した。また、JA職業紹介事業の登録会支援や、平戸市大島地区の畜産農家に対し定休型ヘルパー設立に向けた研修会やアンケートを行った。農家の労務管理能力の向上を目指し、農作業安全研修や労力協だよりの配布を行った。
２．既存組織の定例会等において、状況確認、運営支援、情報提供等を行った。新規作業支援候補者のスムーズな就労と技術習得を目的とするマンツーマン研修の実施を支援した。
３．「サカキ」は、昨年度末に始まった世知原サカキサポートシステムのモデル実証支援の他、遊休圃場巡回、荒廃サカキ園の剪定作業実証研修会、視察研修、精算事務の効率化を支援した。「かんきつ」では、大学学生課の訪問や街頭でのチラシ配布の支援や、農福連携に向けた体験会・マッチング会の開催および農作業支援マニュアルの作成・配布に取り組んだ。「津吉地区」はリーダー２名と必要な労力人数や運営方法等について検討した。「イチゴPC」については、H29年４～５月の試験運用の支援と課題を洗い出し、H30年３月からの本格稼働の利用料金や運営体制に対する助言を行った。

【普及活動の成果】
１．「農福連携」では、作業や利用農家によっては可能であることがわかり、計３件のマッチングができた。実施にあたっては、特徴を十分に理解した上で行うことが重要で、マッチング窓口の設置、作業手順書の作成、トイレ整備、支援員への技術指導等の必要性が高いことがわかった。

「N」の利用意向を把握することができた（利用希望 174 戸）。「JA 職業紹介（柑橘以外）」については、募集活動が年末となり、登録数は伸び悩んだ（求人者４戸、求職者１１名）。「大島地区ヘルパー組合（仮称）」の参加希望農家 17 戸を把握できた。

２．４月から松浦市の県北型労力支援システムが稼働開始となった。

３．「サカキ」は２月末から本格稼動を開始した。

登録圃場：１ha 程度（依頼者 12 戸）、スタッフ：６名（収穫担当２名、結束担当４名）

出荷実績：7,763 束（H29.2～H30.1、部会２位の実績）　※平成 30 年２月末現在

「かんきつ」は、JA 職業紹介（柑橘）の成立数は 66 名で、大学生の収穫アルバイター17 名を確保でき、農福連携１件をマッチングできた

「津吉地区」では農家も含めた地域人材登録制システムが適することがわかった。

「イチゴ PC」の試験運用の結果から、農家メリット、利用料金、運営上の留意点を整理し、H30.3 からの本格稼動に活かすことができた。

試験運用実績　出荷数‥‥‥7,219 パック（平均 13 パック/時、目標 20 パック/時）
作業員‥‥常時４名、臨時５名（選果場人夫の午後従事）
利用農家‥５名
１パック経費‥‥70.5 円（試算時の目標は 38.5 円）
利用農家の意見‥睡眠時間と栽培管理の時間がとれ長期出荷につながった
作業員の意見‥‥パック詰めは楽しかった。粗選果の個人差で詰め時間に差がでた。持込量で勤務時間が変わる点が要改善。

【対象の声】

作業支援者の確保は厳しいが、運営は順調でなくてはならない存在になっている。設立５年を迎え、組織の拡大や地域への普及など今後の方向性の検討時期に来ているので助言をいただきたい。

【今後の課題】

１．農繁期の労力確保に向けたJA職業紹介事業の強化・農福連携のしくみづくり・Nの活用支援・新たなシステムの検討と、大島地区の肉用牛ヘルパー組合設立支援

２．既存組織の運営支援、労務管理能力向上に向けた支援、作業支援者の能力向上支援

３．取り組み初年度の運営安定に向けた支援

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

１．地域および農家の実態にあった労力支援のしくみを提案し、雇用導入後の経営改善に向けた支援を併せて行うことが必要である。

２．雇用に関する専門家のアドバイスを受けながら進めることが必要である。

【発表･参考資料】　なし